



ある担任教師の週案の一部を紹介します。

個人懇談では、子どもたちの家庭での様子や授業後の遊び方など、普段の生活では見えてこない部分をたくさん知ることができ、よい情報交換の場となった。個人懇談を終えて気になったことの一つにスマートフォンの使い方がある。保護者の監督の下、正しい使い方をしている子どももいれば、好き勝手に使っている子どももいるということであった。専門家の出前授業も行ったので、もう一度使い方を見直すよう声をかけていきたい。

携帯・スマホについて考えてみましょう

小学生への携帯電話（以下「携帯」）・スマートフォン（以下「スマホ」）の普及率は年々上昇していると聞きます。4月に行われた全国学力学習状況調査によると、6年生の携帯・スマホの所持率は58%であり、昨年度に比べ2ポイント上昇という結果が出ています。本校においても同様の傾向です。生活のためのツールの1つとして正しく利用すれば、大変便利なものです。しかし、SNS（ソーシャルネットワークサービス）の誤った使い方によるトラブルは後を絶ちません。本校および近隣の小中学校においても例外ではありません。このような状況の中で今一度考え直してみてもどうかということを挙げてみました。

- ① 機器の購入および利用には、ある程度の料金が必要であり、保護者が買い与えているものであるということ
- ② 小学生（中学生）の生活の中での必要性
- ③ 利用方法について正しく理解しているかということ

小学生の生活の中で、携帯やスマホがどの程度必要なのでしょう。必要なのは機能のほんの一部であり、大部分は「高額な遊び道具」というケースも考えられます。また、「みんな持っているから買ってほしいとせがまれる」という保護者の方の声を耳にします。この場合の「みんな」というのは、自分の周囲のごく一部の子ではないでしょうか。全国の統計から10人のうち6人が持っていることになりませんが、10人のうち4人は持っていないということでもあります。

機器の購入を含めて、支払いは保護者が行うことになります。使い方を誤って高額な請求を受けるケースがときどきあります。そうなった場合も、それを支払う能力は子どもたちにはありません。これらのことから、保護者が「買い与えた」という言い方が当てはまるのではないのでしょうか。法律上、成人するまでは、子どもは保護者の監督の下に置かれます。その意味からして、買い与えた携帯・スマホが正しく使われているかどうかを点検・指導することは当然のことであり、義務でもあると思います。

また、インターネット機能について、そのしくみの大まかな内容についての無知であることから起きるトラブルもあります。友人だけにメッセージを送ったつもりが、そうではなかったというケースは、ほんの一例です。

携帯・スマホの購入・利用等について、ご家庭で話し合いや約束の確認をしていただきたいと思います。

まもなく、子どもたちが楽しみにしている冬休み。しかし「おもしろくて、やがて悲しき・・・」とならないよう、大人としての「おせっかい」が求められています。

